

## 平成 29 年度事業報告

### 総括

#### 平成 29 年度の事業

新規事業計画に基づく 3 カ年計画の 2 年目として、平成 29 年度事業計画に沿って実施事業（継続事業）及びその他事業（実験動物飼育管理等事業、研究支援等事業、検査事業、講習会）を継続して行ったほか新規顧客の開拓を行った。

新規採用職員に対して基礎的教育を行い、管理職及び中堅職員に対しては職員研修を行った。

また人事評価制度を導入し 2 年目を迎えることから評価基準の透明性や評価の公平性を担保しながら適正に運用されているか更なる検討を重ねることとした。

1. 実施事業（継続事業） \*公益目的支出計画に基づく事業
2. その他事業
3. 新規顧客（受託事業）開拓

民間製薬企業の実験動物研究支援業務

国立研究機関の実験動物飼育管理及び研究支援業務

○総会等（平成 29 年度）

理事会 平成 29 年 6 月 6 日（火）（AP 秋葉原）

【平成 28 年度事業報告及び決算の承認】

総 会 平成 29 年 6 月 28 日（水）（AP 秋葉原）

【平成 28 年度事業報告及び決算の承認、平成 29 年度事業計画及び予算  
の報告】

臨時理事会 平成 29 年 6 月 28 日（水）（AP 秋葉原）

臨時理事会 平成 29 年 11 月 20 日～30 日（メール及び書面伝達による会議）

理事会 平成 30 年 2 月 27 日（火）（AP 秋葉原）

【平成 30 年度事業計画及び予算の承認】

○会員数（平成 30 年 3 月 31 日現在）

正会員 14 名

賛助会員 1 名（1 法人）

○役職員等数（平成 30 年 3 月 31 日現在）

使用人を兼務する理事（常勤） 3 名

使用人を兼務する理事（非常勤） 1 名

理 事（非常勤） 3 名

監 事（非常勤） 2 名

職 員 34 名（使用人を兼務する理事 3 名を含む）

非常勤職員 6 名（使用人を兼務する理事 1 名を含む）

1. 実施事業（継続事業）（定款の第4条第1項第3号業務）

1-1 霊長類関係の研究者及び技術者を対象にした研究助成事業

予防衛生に関する研究者及び技術者の育成を目的として、国内の霊長類関係者を対象に研究助成事業を行ったが、今年度は研究奨励賞に応募が1名あったが受賞者はなかった。技術奨励賞への応募はなかった。

受賞者数

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
研究奨励賞	なし	なし	なし
技術奨励賞	なし	1	なし

1-2 技術者の育成及び知識の普及

予防衛生を中心とする公衆衛生の向上と科学技術の発展に寄与することを目的として、次の事業を行った。

①予防衛生協会技術講習会の開催：霊長類関係の技術者等を対象にモデルザル

「リアル1号」を使用して、カニクイザルの保定方法・採血方法・経口投与方法・骨髄液採取方法等の技術講習会を次の通り開催した。

日 時	コース	受講者
H29. 6. 24（土）	基礎・応用	1名
H29. 10. 21（土）	基礎・応用	4名
H30. 2. 24（土）	基礎・応用	3名

開催場所は、いずれも予防衛生協会本部（つくば市）

②「第21回予防衛生協会セミナー」を、霊長類関係の飼育管理業務や各種研究に従事する技術者及び研究者等を対象に開催した。

ア) 日 時 平成29年11月11日(土)

イ) 場 所 つくばイノベーションプラザ (つくば市)

ウ) テーマ (社) 予防衛生協会の活動紹介ーより広域な研究支援を目指して

エ) 参加者 20名

## 2. その他事業(定款の第4条第1項第1,2,4号業務)

### 2-1 実験動物管理事業

①医科学研究用霊長類の繁殖育成等業務(国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター)次の業務を実施した。

ア) 1日平均1,465頭のカニクイザル等の飼育管理及び健康管理

イ) 年262頭の妊娠ザル作出、219頭のカニクイザルの生産

ウ) 年173頭のカニクイザル等の供給

エ) 離乳仔ザル190頭の内、SRV・EBV・CMV・SFV未感染ザル100頭(スーパーSPF群)とSRV未感染ザル89頭(SPF群)を分離飼育(SRV未感染ザル99.4%)

オ) ウイルス検査2,756件、細菌検査180件、寄生虫検査133件、血液・血清生化学検査654件、解剖34件、病理検査727件を実施

②国立感染症研究所村山庁舎におけるサル類、モルモット・ウサギ・フェレット等の飼育管理業務及びハンセン病研究センターのサル類飼育管理業務(飼育技術員4名)。

③国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター実験動物管理委託業務  
(3年間契約)の2年目業務(獣医師1名、飼育技術員7名)。

ア) コモンマーモセットの飼育管理及び健康管理

イ) コモンマーモセットの生産

ウ) 体重測定・採血・脳神経手術・運動機能計測・剖検等の補助

④滋賀医科大学の派遣業務「委託研究における獣医学的管理・研究支援業務」(獣  
医師1名、飼育技術員1名)

## 2-2 研究支援等事業

①医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センター内の共同利用施設等

(医科学実験施設及び高度感染症実験施設)を利用する外部研究者の業務  
依頼を受け、医科学研究用霊長類の飼育管理及び研究支援(研究材料採取、  
手術処置、検査等)を実施。なお、外部研究者(研究課題)は基盤研が公  
募し共同利用施設運営委員会及び動物実験委員会等の審査にて承認された者  
また霊長類医科学研究センター施設外へのサル由来材料分与等の研究支援  
を行う場合は基盤研と外部研究者(機関)の間で研究資料分与同意書が取り交  
わされたものについて行った。

ア) 研究用霊長類管理延頭数 [ ]内は1日あたりの平均管理頭数

	27年度実績	28年度実績	29年度実績
医科学実験	15,277頭 [42頭]	8,712頭 [24頭]	7,496頭 [21頭]
P3感染症実験	200頭 [1頭]	162頭 [1頭]	3,907頭 [11頭]
P2感染症実験	5,121頭 [14頭]	3,905頭 [11頭]	6,576頭 [18頭]
非感染実験	0頭	0頭	0頭
計	20,598頭 [57頭]	12,779頭 [36頭]	17,979頭 [49頭]
対前年度増減数	-57,895頭	-7,819頭	5,200頭

イ) 29年度研究課題数

	基盤研	感染研	外部研究機関
医科学実験	1	0	14
P3 感染症実験	7	0	1
P2 感染症実験	2	2	1
非感染実験	2	0	0
計	12	2	16

ウ) 平成 29 年度研究資料分与等研究支援依頼件数

外部研究機関 1 件

②検査については、国内の他施設からサルを導入する際に実施した。平成 29 年度霊長類センターにおける実績は次のとおりである。

ア) 検査頭数

	27 年度	28 年度	29 年度
受託数	13	14	20
(対前年度増減)	(-25)	(1)	(6)

イ) サル種別

(頭数)

	27 年度	28 年度	29 年度
アカゲザル	0	12 (2 件)	20 (2 件)
カニクイザル	3 (1 件)	0	0
ニホンザル	0	2 (1 件)	0
マーモセット	10 (1 件)	0	0

③筑波大学生命科学動物資源センターのアカゲザル定期健康診断業務

(獣医師1名・技術者1名)

④国立感染症研究所ハンセン病研究センターのカニクイザル結核菌感染実験

研究支援業務

### 2-3 検査事業

医科学研究等に使用するサル及びヒトの安全を確保のため、前年度から継続して以下の事業を実施した。

- ① 国内外のサル飼育施設から依頼を受けたサル由来材料についてウイルス抗体検査や細菌検査等を実施した。平成29年度は、前年度より52件増加した。

	27年度	28年度	29年度
検査受託件数	18,330	15,978	16,030
(対前年度増減数)	(-9,679)	(-2,352)	(52)

### 2-4 医科学研究用霊長類からの基盤研究資料の構築等

医薬基盤・健康・栄養研究所霊長類医科学研究センターのカニクイザル繁殖育成コロニーの種々の情報を記録しデータベース化を行った。

### 2-5 技術者の育成及び知識の普及

大学や研究機関等に当協会の技術者を派遣し、研修の実施や飼育技術者認定試験等への協力を通して知識の普及を行った。

また、前年度より予防衛生協会講習会を開催し、今年度は感染症対策と実験動物を取り巻く諸問題にスポットをあて、さらに実験動物の飼養保管等基解説書が発行されたことを受け同基準書の解説を行った。

① 公益社団法人日本実験動物協会から実験動物一級・二級技術者試験受験者向けのサル類実技研修会の技術指導を依頼され、実験動物技術指導員を派遣した。

ア) 日 時 平成 29 年 10 月 29 日 (土)

イ) 場 所 日本獣医生命科学大学

ウ) 担当者 小川浩美

② 公益社団法人日本実験動物協会から、実験動物一級・二級技術者資格認定試験官（サル類）を依頼され、実験動物技術指導員を派遣した。

ア) 日 時 平成 29 年 11 月 26～27 日 (土、日)

イ) 場 所 日本獣医生命科学大学

ウ) 担当者 小川浩美、成田勇人

③ 公益社団法人日本実験動物協会からモニタリング技術委員会委員の委嘱を受けたので職員を派遣した。

ア) 日 時 平成 29 年 9 月 21 日 (木)、平成 30 年 1 月 19 日 (金)

イ) 場 所 日本実験動物協会事務局

ウ) 担当者 藤本浩二

④ 特定非営利活動法人バイオメディカルサイエンス研究会からバイオセーフティ技術講習会（病原体等安全管理技術者養成講座）の講師（実験動物におけるバイオセーフティ）を依頼され職員を派遣した。

ア) 日 時 平成 29 年 6 月 27 日 (火)、平成 29 年 12 月 5 日 (火)

イ) 場 所 幕張セミナーハウス

ウ) 担当者 藤本浩二



⑤ 大学共同利用機関法人自然科学研究機構生理学研究所から、自然科学研究機構生理学研究所「ニホンザル」バイオリソース母群検討委員会専門委員の委嘱を受けたので職員を派遣した。

ア) 日 時 平成 29 年 11 月 14 日 (火)

イ) 場 所 自然科学研究機構生理学研究所

ウ) 担当者 藤本浩二

⑥ 一般財団より、サルの健康診断及び管理方法指導の依頼を受け、獣医師 1 名と技術者 1 名を派遣してサルの健康診断とサルの管理方法に関する講義を行った。

ア) 日 時 平成 29 年 7 月 31 日～8 月 1 日

イ) 場 所 熊本県

ウ) 担当者 片貝祐子、成田勇人

⑦ 国立研究開発法人産業技術総合研究所の職員向けバイオセーフティ講習会「生物学的安全キャビネットに関する講習会」を実施した。

ア) 日 時 平成 29 年 10 月 18 日 (水)

イ) 場 所 産業技術総合研究所 (つくば市)

ウ) 担当者 北林厚生 藤本浩二、濱野正敬、角田薫

⑧ 国立研究開発法人放射線医学総合研究所のサル取り扱い者を対象とした教育講義及び技能検定

ア) 日 時 平成 30 年 3 月 8 日 (木)

イ) 場 所 千葉県千葉市

ウ) 担当者 片貝祐子

⑨ 予防衛生協会講習会

第3回講習会

- ア) 日 時 平成29年6月20日(火) 13:00~19:00
- イ) 場 所 つくばイノベーションプラザ(つくば市)
- ウ) テーマ One Worldの時代の感染症対策
- エ) 参加者 64名

第4回講習会

- ア) 日 時 平成30年2月16日(金) 13:00~19:00
- イ) 場 所 つくばイノベーションプラザ(つくば市)
- ウ) テーマ 実験動物飼養保管基準の解説とサル類の獣医学的管理
- エ) 参加者 32名

- ⑩ 霊長類関係の研究者や繁殖育成等業務に携わる技術者からの技術的事項に関するメール等の問い合わせに対し回答した。(6件)

2-6 ホームページの運営

- ① 当協会の組織及び業務を紹介した。
- ② 当協会の山内一也会員が解説する生命科学の雑記帳を公開し霊長類の研究者及び繁殖育成等に携わる技術者向けに情報を提供したほか、医学系大学生向け教育教材として広く活用された。

## 2-7 研究成果の発表

医科学研究用霊長類に係る研究を積極的に進め、その成果を学術誌や各種学会大会等において発表した。

### 【誌面】

板垣 伊織

Kisu I, Umene K, Adachi M, Emoto K, Nogami Y, Banno K, Itagaki I, Kawamoto I, Nakagawa T, Narita H, Yoshida A, Tsuchiya H, Ogasawara K, Aoki D, Allowable warm ischemic time and morphological and biochemical changes in uterine ischemia/reperfusion injury in cynomolgus macaque: a basic study for uterus transplantation. Hum Reprod. 2017 Oct 1;32(10):2026-2035. doi: 10.1093/humrep/dex250.

片貝 祐子

Safety of intra-articular transplantation of lentivirally transduced mesenchymal stromal cells for haemophilic arthropathy in a non-human primate. Ohmori T, Mizukami H, Katakai Y, Kawai S, Nakamura H, Inoue M, Shu T, Sugimoto H, Sakata Y.

### 【学会、講演】

石井 一

「実験用サル類に係わる出張研究支援・受託検査のご案内」  
第51回 日本実験動物技術者協会総会 2017 山形大会  
2017年10月 山形

「実験用サル類に係わる出張研究支援・受託検査のご案内」  
第21回 予防衛生協会セミナー  
2017年11月 茨城

「予防衛生協会で行っているカニクイザルの状態提示方法の紹介」  
第43回 日本実験動物技術者協会関東支部懇話会  
2018年2月 東京

角田 薫

「実験用サル類の病原体検査」  
第17回 日本バイオセーフティ学会総会  
2017年12月 神奈川

藤本 浩二

「サル由来感染症の検査」  
第4回 予防衛生協会講習会  
2018年2月 茨城

片貝祐子

「臨床現場の治療症例と感染症モデル」

第64回日本実験動物学会総会（福島県郡山市、2017年5月）

片貝祐子、板垣伊織 齋藤亮一

「コモンマーモセットの出血性致死性病変」

サル類の疾病と病理研究会（東京都相模原市、2017年7月）

Y. Katakai,

「Hemorrhagic lethal intestinal pathology in common marmosets」

Asian Society of Conservation Medicine（マレーシア・クチン、2017年10月）

片貝祐子

「サル類の飼育管理（カニクイザルとコモンマーモセットの日常観察）」

日本実験動物技術者協会第33回 関東支部サル部会・東海北陸支部共催講演会  
～京都大学霊長類研究所技術部共催（愛知県犬山市、2018年1月）

片貝祐子

「サル類の健康管理、獣医学的管理の実際」

第4回予防衛生協会講習会（茨城県つくば市、2018年2月）

片貝祐子

「実験動物飼養保管基準解説書の意義と概要」

「サル類の感染症について－微生物検査の実際－」

「サル類の飼育・健康管理」

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所講習会（千葉県千葉市、2018年3月）

棟居 佳子

「雌ツパイでみられた胸頸部腫瘍の一例」

サル類の疾病と病理研究会（東京都相模原市、2017年7月）